

寄地区学校のあり方と町文化財について



質問者
飯田一議員



復旧後の寄神社大銀杏

① 非常に速い速度で少子化、高齢化が進んでいます。時間的な猶予は余りありません。3月に提出された「寄地区学校のあり方の提言」について、スピードを持って検討し実行に移すべきと考えます。現在の進捗状況をお伺いします。

- ・学区の拡大、山村留学制度導入の検討
- ・小規模特認校制度の検討

スピード感をもって検討する
回答（教育長）



② PTA、地域活動のあり方の見直し
③ 寄地区の学校の今後の課題を検討する委員会の設置は、どのような状況になった時に設置されるのか。
④ 町指定の文化財である寄神社境内の「大銀杏」の倒壊に対する町の支援は。

- ① 松田町の小規模特認校制度は、小田原市の

町長は「松田プラン」の確立と、自らトップセールスとしての全国発信、また、「オール松田」の実践と、小気味よい方針を打ち出されたが、熟慮の余裕がないくらいすでに難題がひしめいている。

町長自身の考え方につ



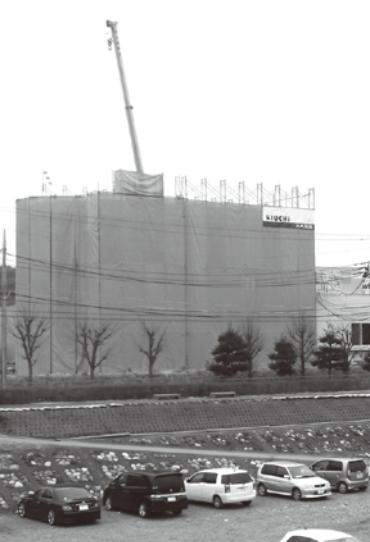
質問者
石内浩議員

早急に取り組むべき課題と中・長期的取り組みについて

ようにより多くの学区がないため、松田小学校地区からの通学になり送迎が問題となる。通学バス定期の補助制度もあるが、費用負担の発生をどう考えていかが。また、山村留学制度導入の検討は、児童・生徒がしっかりと教育を受けられるように、環境を整えなければならない。その方法や生徒の増加策などについて、前向

きに検討したい。
② 3年後を目安に、今一度アンケートの実施を考えているが、3年後といわず適切な時期をとらえ、再度委員会の設置に向けて準備を進めたい。
③ 寄神社の関係者や氏子の皆様からの寄付で賄うと聞いているが、町としてどのような支援ができるのかを、検討していただきたい。

て、県・国の新しい施策には、ぬかりのなきようされたい。また、7年後のオリンピック開催までの同時進行で、「スポーツ・健康づくり」、「おもてなし」を「オール松田」で取り組むチャンスと思うがいかがか。



3月完成の株式会社小田原エンジニアリング

いて、伺いたい。
① 前者から引き継いだ総合計画の4つの骨格形成プロジェクトについての考え方、JR松田駅舎の改築についての町の対応、株式会社小田原エンジニアリングの移転に伴う町の対応について

② トップセールスをしつつ、周辺の生活排水処理事業については、再度検討し事業手法を決定したい。JR松田駅舎の耐震改修工事は、平成27年秋に完成と伺ったが詳細は未定、店舗設置等の要望をしていただきたい。(株)小田原エンジニアリングは従業員130名、新工場が3月に完成する。小・中学生の見学や職場体験ができるようになる。また、水などの災害備蓄品の支援を頂ける。

「オール松田」で町づくり

回答（町長）



くりたい。また、交差点等の県警協議を進め、早期完了を目指す。寄地区的生活排水処理事業については、再度検討し事業手法を決定したい。JR松田駅舎の耐震改修工事は、平成27年秋に完成と伺ったが詳細は未定、店舗設置等の要望をしていただきたい。(株)小田原エンジニアリングは従業員130名、新工場が3月に完成する。小・中学生の見学や職場体験ができるようになる。また、水などの災害備蓄品の支援を頂ける。

① 骨格形成プロジェクトの新松田駅南口駅前広場整備は、用地取得のため自ら出向き地権者へのお願いとともに、地元の皆様への説明機会もつ

くりを推進する。